

地域の資源を活かし、育み、「水」「土」「里」の未来を拓く

秋田の山

あきたのとちかいらょう

土地改良



VOL. 523

2023

1.16 [Mon]

イメージキャラクター
みどりちゃん

謹賀新年



「祈願」 撮影者/渡邊 巖

表紙の写真は、第18回「美しく豊かな農村づくり」写真コンクールにおいて入賞された作品です。秋田市の大平山三吉神社総本宮では、五穀豊穡や家内安全など祈願して梵天を奉納する「三吉梵天祭」が行われます。今年は数年ぶりに一般客の見学もできるそうです。

2023年は、今までよりも活気に満ちた1年になりますようお願いいたします。

目次

CONTENTS

新年挨拶		令和4年度土地改良関係団体役員講習会	10
・ 本会会長【高貝久遠】	2	第44回全国土地改良大会沖縄大会	10
・ 秋田県知事【佐竹敬久】	3	「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2022」審査結果について	11
・ 全国土地改良事業団体連合会会長【二階俊博】	4	会員だより	11
・ 全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【進藤金日子】	5	連合会日誌	11
・ 全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【宮崎雅夫】	6	謹賀新年（新年挨拶）	12
農地集積加速化基盤整備事業「平根地区」（由利本荘市）のご紹介！	7	第65回通常総会開催予定	12
令和5年度農業農村整備事業関係予算	8	編集後記	12

新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット秋田)

会長 高貝 久遠

明けましておめでとうございます。

皆様には、御家族おそろいで、お健やかに初春をお迎えになったことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より農業農村整備事業の推進に多大なる御尽力をいただきとともに、本会の運営に特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、去年は6月上旬の低温や日照不足に加え、過去の大雨被害でも最大規模となる豪雨災害が発生し、水稻の作柄は4年ぶりの「やや不良」となりました。さらにウクライナ紛争などの影響により、電力料金や肥料などの生産資材が急激に高騰するなど、

生産者にとって厳しい1年でありました。

このように、近年は、大規模自然災害に加え、食料供給に影響を及ぼす様々なリスクが国内外で発生しています。こうした情勢のなか、国内の食料安全保障を確立するためには、農業が成長産業として持続的に発展し、食料等の農産物の安定供給という役割を果たしていかなければなりません。

そのためには、担い手の育成・確保を進め、担い手への農地の集積・集約化を推進するとともに、農業生産基盤の整備を効果的に実施することにより、生産体制と生産基盤の強化を図ることが重要であります。

水土里ネットは、農業農村整備事業の推進母体として、盤石な運営体制のもとで、農地の大区画化や汎用・畑地化、スマート農業に対応した基盤整備のほか、農業水利施設の保全管理、ICT等を活用した水管理などを積極的に推進し、国内外の情勢の変化に負けない「強い農業・農村」を実現していく必要があります。

事業実施に必要な国の農業農村整備関係予算については、令和5年度当初予算案は4,457億円で閣議決定していただき、令和4年度補正予算と合わせると6,134億円となり、各地域において計画どおりに事業実施できる予算額が確保される見込みです。今後とも、計画的に事業を実施するために、安定した予算確保に向けて、水土里ネットの組織を挙げて積極的に要請活動を展開してまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

水土里ネット秋田は、農業農村整備事業の調査・計画から完成まで総合的にサポートし、本県の農業・農村の持続的発展の一翼を担うために、役職員一同、全力で業務に取り組んでまいりますので、皆様には、なお一層の御支援と御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして、穏やかで、希望に満ちた幸多い年となりますように、心から御祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

年頭のごあいさつ



秋田県知事
佐竹 敬久

明けましておめでとうございます。

水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、8月に県北地域を中心に記録的な大雨に見舞われ、農地・農業用施設においても甚大な被害が発生したところであります。

被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、県としましても、春からの営農に支障を来さないよう、復旧に向けて全力で支援するとともに、農業水利施設の長寿命化対策や、ため池の豪雨・耐震化対策について、ソフト・ハードの両面から推進し、県土の強靱化により一層努めてまいります。

さて、農業を取り巻く情勢は、労働力不足や担い手の高齢化、ICT等による急速な技術革新、さらには、国際情勢の緊迫化に伴う原油価格や物価の高騰、コロナ渦によるライフスタイルの変化など、急速な時代の流れの中で大きく変化しております。

こうした喫緊の課題にいち早く対応するため、肥料・生産資材等の高騰対策や、電力料金高騰の影響を受けている土地改良区に対する支援など、県では新たな事業を創設し、農業者に寄り添った対策を講じているところであります。

また、4月からスタートした「新秋田元気創造プラン」では、食料安全保障の観点から「農業の食料供給力の強化」を目指す姿として掲げたところであり、複合型生産構造への転換を図ることはもとより、我が国の食料供給基地としての役割を果たすためにも、水田の大区画化やスマート農業に対応した「あきた型ほ場整備」を重点的に実施し、持続可能で効率的な生産体制を構築することにしております。

さらに、基幹となる米については、食味にこだわり9年の歳月をかけて開発した新品種「サキホコレ」が10月に全国一斉でデビューを迎え、大変に好評を博しているところでありますので、「サキホコレ」をフラッグシップに、今後とも秋田米全体の戦略的な生産・販売を推進してまいります。

加えて、農山村の活性化対策として、地域の魅力を活かした新ビジネスの創出や、多様な人材が参画しての地域活性化を図り、笑顔でいきいきと住み続けることの出来る農村地域の実現を目指してまいります。

こうした取組を通じて、本県農業が持続可能な成長産業として発展できるよう、私自身が先頭に立ち、引き続き農業農村整備事業を力強く推進してまいりますので、水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましても、より一層のご支援・ご尽力をお願いいたします。

結びに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、世界に安寧が訪れることを願いますとともに、新しい年が皆様にとって実り豊かで、幸多き年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

新年にあたって



全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊博

令和5年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、様々な感染対策を講じた上で、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立を図るウイズコロナの方針が示されました。皆様におかれましては、「新しい生活様式」を日常生活に取り入れ、引き続き、感染拡大防止に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

また、昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあり、一部の国では穀物の輸出規制が実施されるなど、食料流通の機能不全や食料価格の高騰など食料安全保障をめぐる負の影響が国際社会に生じました。

国内では、農業者の高齢化や減少により、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、燃料価格の上昇に伴う農事用電力料金の急激な高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような国内外の情勢にかかわらず、食料安全保障の観点から、日本の食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

岸田内閣は、こうした状況を踏まえて「食料・農業・農村基本法」の見直しに着手しました。この検討の動きを注視しつつ、我々土地改良関係者は、農業・農村の喫緊の課題に積極的に取り組んでいく必要があります。

令和5年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,457億円を確保することができました。この結果、令和4年度の補正予算を含めると6,134億円となります。

また、令和4年度補正予算において燃料価格の上昇に伴う土地改良区の電気代高騰分の7割を支援する仕組みが導入されました。御尽力をいただいた当局をはじめ関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、我々土地改良団体における喫緊の重要課題となっています。

将来の組織体制の強化・発展のためにも女性参画を進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

さて、私は本会の会長に就任以来「闘う土地改良」を掲げ、組織一体となって闘ってまいりました。昨年の参議院選挙においては、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員が見事に当選を果たされました。

宮崎雅夫参議院議員と共に「車の両輪」となって、全国を駆け回り、皆さんの声を聞き、土地改良予算の確保だけでなく、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声が国会に届くよう、二人の活動の支援をお願いいたします。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます、私の新年の御挨拶といたします。

新年のご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員

進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。秋田県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいる覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和4年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靱化5か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和5年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、2月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われま。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいる覚悟です。

昨年7月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靱なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年6月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げます、新年のご挨拶にさせていただきます。

新年ご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員

宮崎 雅夫

輝かしい初春を迎え、秋田県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様方へ謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進ならびに土地改良施設等の適切な管理や土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、昨年8月まで農林水産大臣政務官を勤めさせていただきましたが、その間、皆様方からお受けした、たくさんのご要望等に対し、それぞれの地域の課題解決等に向け、進藤金日子議員や農水省の職員の皆さん等と共に一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項を含め、昨年12月に成立した令和4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円、このうち、農業農村整備事業関係については、1,677億円（食料安全保障強化対策100億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災、国土強靱化817億円）が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金の高騰に対し、増嵩分の7割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和5年度当初予算の概算額として、前年を上回る4,457億円が計上され、総額6,134億円となる見込みとなりましたが、これから行われる国会での議論において、しっかりと確保できるよう努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、とりわけ、カロリーベースで6割程度を輸入に頼る我が国の食料事情にあって、その安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが求められております。国内農産物の生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業の取組推進や農業農村関係人口の拡大などを含めて、しっかりと推進していくことが重要です。

私も、卯年の今年は年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりと伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいりますので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、秋田県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係機関の益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念申しあげ私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。



由利本荘市平根地区

「平根地区」(由利本荘市)のご紹介

平根地区の紹介

秋田県の南部、旧鳥海町の平根地区では、平成25年度から県営農地集積加速化基盤整備事業に取り組み、地域農業の持続的発展を図るために米依存から脱却した複合型生産構造への転換を推進してきました。担い手の育成においても、農業法人を設立し、農地中間管理事業を活用して同法人に事業地区内の農地100%を集積しました。さらに、基盤整備事業の成果を活かし園芸メガ団地を整備。リンドウ、アスパラガスなどの高収益作物の生産を本格化し、複合型生産構造へ転換を実現させています。

今回は、土地改良区職員として長年にわたり地域を支え、基盤整備事業にも大いに貢献してきた、由利本荘市土地改良区鳥海出張所長の黒木重徳さんにお話を伺いました。

事業概要

事業名 県営農地集積加速化基盤整備事業

工事期間 H25～H30

主要工事 区画整理工、用水路工、排水路工、農道工、
暗渠排水工(地下かんがいシステムあり)

関係土地改良区 由利本荘市土地改良区

事業実施前(H24)		H30実績	
水稲	53.7ha	水稲	41.6ha
高収益作物 ・リンドウ ・小菊 ・アスパラガス	1.6ha	高収益作物 ・リンドウ ・小菊 ・アスパラガス	8.8ha
その他作物	2.7ha	その他作物	4.3ha



由利本荘市土地改良区鳥海出張所長
黒木重徳さん

インタビュー内容

事業実施前の地区の状況について教えてください。

事業に向けて動き始めたのは平成22年頃で、地元には集落営農組織が2つありました。昔からほ場が錯綜し、水管理もごちゃごちゃして大変でした。これらの現状を打破したいと、集落営農組織内から将来の基盤整備を熱望する声が出てきました。そんな中、県から事業の話があり、採択を目指すこととしました。



農事組合法人 平根ファームの皆さん

事業を契機として法人を設立し、集積率100%を達成しました。

平成25年に事業採択となり、農地中間管理事業も始まり、集積協力金も活用して26年7月に急遽、農事組合法人平根ファームを立ち上げ、地区内は全て引き受けるということになりました。

私は法人設立に関するバックデータを色々調べ、法務局まで行って、登記まで全部自分でやりました。そういう事務的な部分は俺が全部やるから、皆は法人スタッフとして頑張ってくれと。それぞれ得意分野がありますから。

当時6名であった従業員も、現在は7名です。今では若い人達に作業計画を立てて貰い、農業用ドローンやスマホによるGISシステム活用など主体となって動いてもらっています。女性社員も頑張っていますよ。40代の方で、事務とアスパラ担当ですが、大型の免許も持っており、バイタリティ溢れる方です。

販売額1億円を目標とする園芸メガ団地へ取り組んだきっかけを教えてください。

はじめは、私も難しいな、と考えていましたが、計画していた営農構想と事業内容が合致しており、挑戦することとなりました。とにかく急だったので、1週間で資料作成、積算までやりました。大変でしたが、県やJAから協力を仰ぎ、なんとか事業をスタートすることができました。

鳥海リンドウへの取り組みは、平成7年に農業者と当時の町長の意見交換の場で、冬場出稼ぎにいかないで収入になるものはないか、という話から浮上しました。鳥海山に自生していた原種を、長野県で改良したもので、寒冷な気候ならでは、ブルーの鮮やかなものが生まれました。今こそ、機械も導入していますが、最初の頃は夜中の12時から1時頃まで手作業で選別して、翌朝に出荷という大変な作業でした。

現在は、新たにストックという春の花をハウス栽培したり、6月頃の収益となるものがないので新たに玉ねぎを付けたり、切り花用のひまわりやペニバナなど、色々チャレンジを続けています。



リンドウの栽培

最後になりますが、黒木さんが感じた基盤整備の効果、メリットについて教えてください。

新規要望の声が増えました。隣の平根2期地区は、今年調査2年目です。皆が平根地区の事を知っているので、初めに声掛けをした時は1週間で要望書ができました。ここから上流の笹子地区も、隣の土地改良区ですが、現在ほ場整備に向かっています。皆が、ここ平根地区を見て影響を受けています。

ほ場整備は利益が上がり、維持管理も楽になります。また、地域の人たちのつながりも維持できていると実感しています。事業を終えて「まだまだ頑張れる」「法人が出来て安心して農地を任せられる」という声を聴くと、私たち土地改良区も農家にとって大切な基盤整備づくりに大きな役割を果たしたと嬉しく思っています。

令和5年度農業農村整備事業関係予算

概算決定の概要

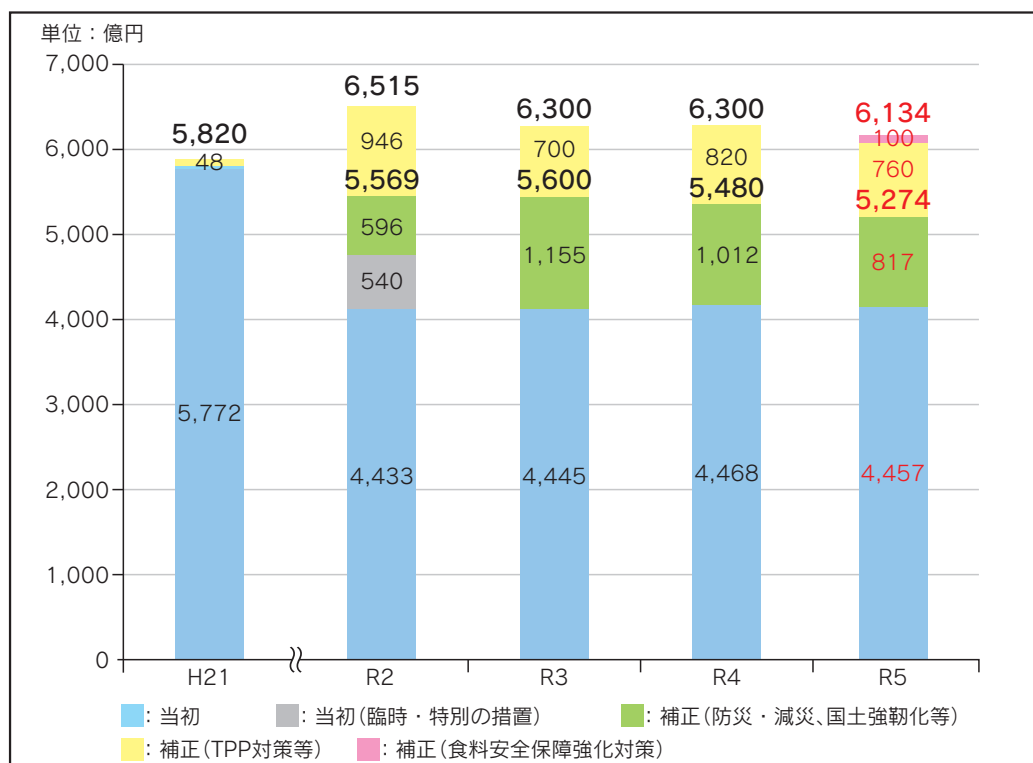
令和5年度農林水産予算について、12月23日に下記の内容が閣議決定された。

(単位：億円)

区分	5年度 概算決定額 A	4年度 補正額 B	合計 A+B	【参考】		
				4年度 予算額 A'	3年度 補正額 B'	合計 A'+B'
農業農村整備事業(公共)	3,323 (100.1%)	-	3,323	3,322	-	3,322
農地耕作条件改善事業	200 (80.6%)	-	200	248	-	248
農業水路等長寿命化・防災減災事業	282 (111%)	-	282	254	-	254
畑作等促進整備事業	20	-	20	-	-	-
農山漁村振興交付金	41 (107.9%)	-	41	38	-	38
農山漁村地域整備交付金(公共)(農業農村整備分)	591 (100%)	-	591	591	-	591
政府情報システム予算	-	-	-	15	-	15
食料安全保障強化対策	-	100	100	-	-	-
TPP等関連農業農村整備対策	-	760	760	-	774	774
国土強靱化対策	-	817	817	-	1,012	1,012
米の臨時特別対策	-	-	-	-	46	46
計	4,457	1,677	6,134	4,468	1,832	6,300

(注) 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
2. 下段()書きは、令和4年度予算額との比率である。

農業農村整備事業関係予算(当初及び補正)の推移



<注目事項>

- 農業農村整備予算は4,457億円を計上。令和4年度補正予算と合わせて6,134億円となる。
- 平成22年度に大幅削減となった農業農村整備予算は、削減前の平成21年度予算を大幅に超える額となった。

土地改良事業関係予算の概要

(注) 各事項の下段()内は、令和4年度当初予算額

1. 令和5年度当初予算

①農業農村整備事業<公共>	3,323億円 (3,322億円)
・競争力強化のための水田の畑地化・汎用化や農地の大区画化、新たな農業水利システムの構築、国土強靱化のための農業水利施設の適切な更新・長寿命化、省エネ化・再エネ利用、ため池の防災・減災対策や農業用ダムの洪水調節機能強化、集落排水や農道等の生活インフラの整備等を推進	
②農業農村整備関連事業<非公共>	543億円 (540億円)
・農地中間管理機構による担い手への農地集積等に向けて、地域の多様なニーズに応じたきめ細かな耕作条件の改善、高収益作物への転換や営農定着、麦・大豆の増産に必要な取組等を支援（農地耕作条件改善事業）	
・農業水利施設のきめ細かな長寿命化対策や機動的な防災減災対策を支援（農業水路等長寿命化・防災減災事業）	
・麦・大豆等の畑作物等の生産拡大を推進するため、畑作物・園芸作物を作付けする地域において、畑地かんがい施設の整備や農地の排水改良等の基盤整備をきめ細かく機動的に支援（畑作等促進整備事業）	
・中山間地域等における農用地保全を図るための基盤整備や粗放的土地利用、スマート農業実装促進のための情報通信環境の整備等を支援（農山漁村振興交付金）	
③農山漁村地域整備交付金<公共>	591億円 (591億円)
・地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援	

2. 令和4年度補正予算

①食料安全保障強化対策	100億円
・麦・大豆等の海外依存度の高い品目の生産拡大を促進するため、排水改良等による水田の畑地化・汎用化、畑地かんがい施設の整備等による畑地の高機能化、草地整備等を推進	
②T P P等関連農業農村整備対策	760億円
・農地の更なる大区画化・汎用化、水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化、畜産クラスターを後押しする草地整備等の推進を支援	
③国土強靱化対策	817億円
・農業用ダムの洪水調節機能の強化、田んぼダムの取組、農業水利施設等の安定的な機能発揮・老朽化対策や豪雨・地震対策、防災重点農業用ため池の防災工事等を推進	

今年度は、11月17日(木)の鹿角、大館・北秋田支部役員講習会、仙北支部役員講習会を皮切りに12月9日(金)まで県内9会場に於いて、延べ567名の関係者が参加し盛会のうちに終了することが出来た。

■各支部の日程及び主な個別テーマ

○鹿角、大館・北秋田支部(役員) 11月17日(木)～18(金)

個別テーマ「権利関係調査の進め方について」

講師：秋田県農林水産部 農地整備課 土地改良指導班 主任 佐藤 健太 氏

○仙北支部(役員) 11月17日(木)～18日(金)

個別テーマ「相続登記の申請義務化と長期相続登記未了土地解消作業について」

講師：秋田地方法務局 登記部門 統括登記官 藤原 勝美 氏

○仙北支部(職員) 11月28日(月)

個別「所有者不明土地の発生予防と利用の円滑化に関する民事基本法制度の見直しについて」

講師：司法書士 山田 進 氏

○山本支部(役員) 11月29日(火)

個別テーマ「複式簿記の活用について」

講師：秋田県土地改良事業団体連合会 総務企画部 政策・広報班 主査 南 聡洋 氏

○由利支部(役員) 11月30日(水)

個別テーマ「ダム湖に沈む村『百宅物語』」

講師：鳥海郷土調査会 会長 眞坂 洋一 氏

○秋田支部(職員) 12月2日(金)

個別テーマ「会計決算書の読み方」「インボイス制度」

講師：吉田徹税理士行政書士事務所 吉田 徹 氏

○平鹿支部(役員) 12月5日(月)

個別テーマ「不思議と笑いと驚きと」

講師：マジシャン ブラボー中谷 氏

○秋田支部(役員) 12月7日(水)

個別テーマ「相続登記の申請義務化と長期相続登記未了土地解消」

講師：秋田地方法務局 登記部門 統括登記官 藤原 勝美 氏

○雄勝支部(役員) 12月9日(金)

個別テーマ「日本の食料を考える」(オンライン)

講師：全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進藤 金日子 氏

北秋田支部土地改良関係団体



▲高貝会長挨拶
(12月2日秋田支部)



▲進藤参議院議員講演
(12月9日雄勝支部)

第44回全国土地改良大会沖縄大会

水土里の拓くみるく世を 鳴らしとうゆまし守禮の邦から

11月22日、「第44回全国土地改良大会沖縄大会」が、沖縄県の本土復帰50周年を記念し、沖縄市の沖縄アリーナで3年ぶりに一堂に会して開催され、全国から関係者約2,300名が参集した。

「水土里の拓くみるく世を 鳴らしとうゆまし守禮の邦から」を大会スローガンとし、農業農村整備の更なる推進と併せ、土地改良施設などを守る土地改良区の役割を広く国民に発信し、持続的な農業・農村を可能とするため「水・土・里」を守り、引き継いで行くことを宣言した。



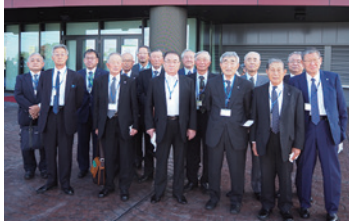
▲伊藤盛雄総括監事
(全土連会長表彰)

全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長が主催者挨拶で「予算確保に向け、私たちは常に『闘う土地改良』を掲げ、一致団結して闘っていないか。全国の農業を守る、農業関係者の皆さんを支える、皆で頑張ることを誓い合う沖縄大会にしたい」と呼びかけた。

大会では土地改良事業功績者表彰として67名が表彰を受けた。秋田県からは、農村振興局長表彰に大坂芳市氏(本会前理事、湯沢雄勝土地改良区前理事長)、全国土地改良事業団体連合会長表彰に本会の伊藤盛雄総括監事(にかほ市土地改良区理事長)が表彰された。



▲挨拶をする二階俊博全土連会長



▲秋田県参加者

未来へつなごう！ ふるさとの水土里 子ども絵画展 2022

審査結果
について

「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展」(全国水土里ネット主催)は、子どもの絵画を通じ、一般国民に対する水土里ネットの普及啓発を効果的に展開するため、平成12年度から毎年開催しており、今年で23回目を迎える。今年度の入賞作品は、12月4日(日)～12月11日(日)の間「東京都美術館」で展示を行った。

秋田県からは136作品の応募があり、今年度はその中から1作品が受賞した。



水土里ネット秋田会長賞

「せせらぎの中の野さいたち」

美郷町立仙南小学校 金子 美麗 さん

会員だより

新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。

- 仙北市神代土地改良区(R4.12.8)
理事長 大石 知
- 山本郡藤里町藤琴土地改良区(R4.12.17)
理事長 伊藤 孝年
- 峰浜土地改良区(R4.12.27)
理事長 阿部 富廣

新町長就任のお知らせ

次の方が新たに町長に就任されました。

- 八峰町(R5.1.9)
町長 堀内 満也

事務所移転のお知らせ

峰沢村大沢土地改良区の住所が下記のとおり変更となりました。

- 移転先住所
〒018-2503
山本郡八峰町峰浜塙字豊後長根150-1
TEL : 0185-76-2160
FAX : 0185-74-9230

連 合 会 日 誌

1月5日	都道府県土地改良事業団体連合会ブロック代表事務責任者会議	オンライン会議
1月6日	都道府県水土里ネット等事務責任者会議	オンライン会議

今後の行事予定

1月25日	NN予算に関する説明会(キャラバン)・意見交換会	秋田市
1月27日	令和4年度第2回役員会(県職員会)	本会第1会議室
2月2日	令和4年度女性セミナー(あきた水土里ネット女性の会)	秋田市
2月3日	令和4年度第2回理事会(秋田県農地集団化推進協議会)	秋田市
2月10日	第4回正副会長会議	本会役員室
2月14日	全国水土里ネット女性の会総会	東京都
2月17日	第6回監事会	本会第2会議室
2月17日	第4回理事会・第3回役員会	本会第1会議室

今年もよろしくお願いたします。

令和5年



※秋田市総社神社の特大絵馬

会 長	高 貝 久 遠	秋田県田沢疏水土地改良区理事長	理 事	瀬 川 等	湯沢雄勝土地改良区理事長
副 会 長	藤 井 弘 道	秋田県南旭川水系土地改良区理事長	〃	菅 原 広 二	男鹿市長
〃	成 田 光 弘	北秋田市土地改良区理事長	〃	三 浦 昭 夫	由利本荘市土地改良区理事長
専務理事	佐 藤 暢 芳	員外(学識経験者)	〃	福 原 淳 嗣	大館市長
常務理事	金 森 正 広	員外(学識経験者)	〃	松 田 知 己	美郷町長
理 事	南 都 武 男	昭和土地改良区理事長	総括監事	伊 藤 盛 雄	にかほ市土地改良区理事長
〃	石 山 金 由	二ツ井町土地改良区理事長	監 事	安 達 英 樹	大館市二井田真中土地改良区理事長
〃	田 口 信 一	かづの土地改良区理事長		外職員一同	

開催予定

本会第65回通常総会

日時 令和5年3月17日(金) 午後1時

会場 秋田県社会福祉会館 10階大会議室

編 集
後 記

皆さま、明けましておめでとうございます。お正月休みは昨年の疲れを取るためゆっくりと過ごされた方も多いと思います。私は、いつもと変わらず家族や友人と過ごし、幸せな休日を送ることが出来ました。

さて、今年の干支は「卯」です。芽を出した植物が育ち、莖や葉が大きくなる時期であることから目に見えて大きく成長する年だと言われています。また、うさぎは、飛び跳ねるため「飛躍」や「向上」の象徴だそうです。

始まったばかりの2023年ではありますが、今年はどうなるか想像すると今から楽しみでなりません。会員や関係者の皆さまにとってもこの一年が健康で明るく、そして大きく飛躍される年であることをお祈り申し上げます。

今年も水士里ネット秋田を何卒よろしくお願申し上げます。(政策・広報班 寺澤)

